



日本医療機能評価機構 認定病院

庄原同仁病院 広報誌 第34号

発行 庄原同仁病院広報新聞委員会
〒727-0203 庄原市川北町890-1
Tel:0824-72-7300 Fax:0824-72-7333
e-mail doujin@sweet.ocn.ne.jp
URL <http://nagaekai.com/>

優しさとは

院長 村尾 文規



わけ

「理由もなく 寂しさつのる 年になり こころよせくる 人ぞこひしき」
だれにも老いが来る。老境に入れば理由もなくさびしくなるものだ。そういう思いもあつてか、仕事はじめの席上、職員に『優しさ』を求めた。優しさは与えられなければ、与えることもできない、とも話した。その直後から、『優しさ』とは、問われたら、どう答えたものかと気になりました。『優しさ』と聞くと、真っ先に頭に浮かぶのは思いやる心である。笑顔で、穏やかな気持ちを持って接することを一方の極とすると、他方の極は、相手の幸せを願う気持ちが前程にあるから、時には、強い口調で、厳しく叱責することもあり得る。相手のために必要な行為を貫き通すことだ。今更ながら、根源的な課題であることに気づき始めた。加藤蹄三氏の著書を引くと、子供たちが、母親から、愛されて育ち、欲求が満たされると、周囲を信頼し、自分を信頼するようになるという。自我が統一されて、『優しさ』が芽生えるという。優しさの獲得は、すでに幼い時に始まっている。

しかし、日常的に、日本の四季折々の美しい風景が、優しい心を与えてくれることは、誰でも経験するところだ。

悲しみに暮れている人に、微笑みかけ、短時間でも、寂しい人を訪れ慰める、雨にぬれているひとに傘をさしかける、これらは、ほんとに小さいことだが、貧しい人々への具体的な行為こそ神にたいする愛である。何でもない微笑みの効果は、計り知れないものがあるという（マザー・テレサ）。『優しさ』のヒントは、日常生活の中に、いくらでも潜んでいて、誰にでも、その気持になれば、何時でも、何処でも実践できる行為なのである。

また、アルボムッレ・スマナサーラは、本当のやさしさは、自然でいることだという。エゴをなくせば、もっともっと欲しいという欲に苦しむことがなくなる。すべての生命は、繋がって生きている。その生命のネットワークが本当のやさしさであると説く。よけいなエゴをなくすだけで幸せに生きられる。やさしさとは、ごく自然にいきることなのだ。自己中心にものを考えないこと。自我がないことが、優しいということだ。情緒を育み耕すことに心を砕かねばならない。

私たちは、おはようございます、ありがとうございました、お疲れさまでした、などと、言い交わすことを行動規範としている。笑顔で気持を込めて声をかけ合うならば『優しさ』に収斂するであろう。自分なりの説明を加える責めがあるとも考えた。筆は遅々として進まず、ひたすら字句を羅列するに終始した嫌いはあるがご賢察を願いたい。

基本理念

わたくしたちは、すべての人に等しく
仁愛の精神をもって接し、
心の通う医療の実践に努めます。

基本方針

患者様の満足：常に患者様の立場に立って行動します。
職員の満足：働きやすく、やりがいのある職場づくりに努めます。
地域の満足：医療サービスを通じて地域の方々に喜ばれるよう努めます。

平成二十年に向けて庄原同仁病院スタッフ & 今年の干支 職員推薦「ワンコ」

1 病棟 チームワークと笑顔を大切にしています。



ナイト(渡辺)
ミニチュアピンシャー



チーク
(福岡)ラブラドール

2 病棟 心を一つに、今年も頑張ります。



ネネ&チロ
(倉元)



実は、きょう
うだいです

こうた
幸太
(福光)



薬剤科 「薬」をとおして、患者さん
の治療に関わっています。



栄養課

患者様や家族の方と顔をあわすことが少ない私達ですが、患者様からいただく「おいしかったです」「ありがとうございます」の言葉を励みに、日々頑張っています。これからも、患者様に寄り添った笑顔が見られる食事作りをしていきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。



トミー
(黒長)
コリー



レクリエーション



いつもみんなで
楽しめるレクを
心がけています！
“笑う門には福
来る”



マロン(伊東)ペキニース



こぼちゃん(中原)プードル



hana(熊本)
ミニチュアダックスフンド



ぶっち(田邊)



患者様に寄り添い、
心体の声を傾聴す
ることをモットー
に、日々リハビリ
をしています。

リハビリテーション科

管理部 気持ちの良い環境づくりと明るい挨拶を心がけます。



レオ(福岡)ホワイトテリア



コロちゃん
(井上)パグ

ボランティアの方々に癒されています



演歌歌手『やしま としお 様』の歌謡ショー



熱唱される、やしま様

昨年11月28日、広島から演歌歌手の『やしま としお 様』が歌謡ショーを開いて下さいました。歌手と聞き、患者様も私共も、いつも以上に興奮しながら当日を待つ日々でした。案の定、素晴らしい歌声、そして人柄にビックリ！！

聞き惚れ、見惚れ、夢のような楽しい時間を過ごす事が出来ました。昔の懐かしい選曲をして下さり、日頃口数の少ない患者様も歌を口ずさんでおられるのに、またもやビックリ！！

患者様の心を開くきっかけにもなったのではないかと思います。患者様が、あのような笑顔になっていただけたよう私も頑張らねば・・・と再確認し、勉強させられた、ありがとうございました。本当にありがとうございました。



歌にトークに患者様は、やしま様の魅力にひきつけられました

職員に癒しのハンドマッサージ



昨年12月27日光木久爾子様がボランティアで職員にハンドマッサージをしてくださいました。

施術してもらったスタッフはアロマの香りに包まれて身も心も癒されたようでした。光木さんありがとうございました。



少しの時間ですが職員はストレスから解放してもらいました



昨年12月14日、今年もアライアンス教会さんに来ていただき、クリスマス会を行いました。

患者様とクリスマスの歌を歌つ



クリスマスのお話を耳をかた向けました



職員も参加し歌とハンドベルの演奏

たり、患者様の飛び入り参加で一緒にハンドベルも演奏していただき、楽しいクリスマス会となりました。アライアンス教会の皆様ありがとうございました。

職員の日頃のストレスを少しでも解消できればと…院内スイーツ会の開催



“職員が生き生き働く職場づくり”の一環として、日頃、頑張っているスタッフが、少しでもほっこりできることがないかと思いついたのが、ケーキバイキング！

これだけで日頃のストレスが解消できるとは、あま~いですが、昼食後、何種類かの一口サイズのケーキとコーヒー片手にひと休み・・・初の試みでしたが、職員の皆さんのかお顔がほっこりしていました。（お弁当食べた後でも、皆さん、ケーキは別腹でした）

また次、ほっこりできる企画をしていきたいと思います。



数種類のプチケーキとコーヒー・紅茶を用意

たくさんの笑顔が見たくて、職員が奔走しました

北地区ふるさと祭りに今回も参加しました

北地区ふるさと祭りに今回も参加しました。近年メディアにも取り上げられるようになったサルコペニアの啓発を目的に筋量測定、握力測定を実施させて頂きました。幅広い年齢の方にお越し頂きました。参加者の方は健康意識の高い方が多く、同年代平均を上回る方が多数おられ、生活習慣や体力維持に関する様々な話題を共有することができました。今後も啓発の一助を担えるよう参加していきたいと思いますので、見かけたら是非お立ち寄りください。



今年も地元の方に多数ご体験していただきました

毎年恒例の演芸会 今年も職員頑張りました

毎年恒例の演芸会が開催されました。各部署のスタッフが患者様を前に、寸劇や歌、ラインダンスや二人羽折、平成29年TVを賑わした芸人の物まねなどで、この日の為に隠れて?技や芸に磨きをかけて檀上に登場しました。職員の頑張りで、患者様の笑顔をたくさん見ることが出来ました。



フレッシュなスタッフが急増中!



看護師のユニホームが昨年末に一新しました、ブルーのラインを基調にした爽やかなデザインになりました

木村妙子 (看護師)

『患者さんが穏やかに過ごせるよう努めたいと思っています。
よろしくお願ひします。』

藤田陽子 (看護師)

『一期一会を大切に頑張ります。宜しくお願ひします。』
重森友美 (看護助手)

『解らない事ばかりですが、精一杯頑張ります。』

山本靖香 (調理員)

『昨年10月25日からお世話をしています。先輩方に助けてもらっている
がら頑張っています。よろしくお願ひいたします。』

森永 愛 (看護師)

『これからも一生懸命頑張ります。よろしくお願ひします。』
須沢みき恵 (看護補助手)

『スタッフの皆さんと仲良くしながら、患者様に優しく接していく
いと思っています。』

編集後記

オンリーワン

「No. 1にならなくてもいい もともと特別なOnly one♪」皆さんご存知SMAPの世界に一つだけの花の歌詞である。さて、患者さん一人ひとりに個性があるように、私たち看護介護者も個人の個性を大切にし、自分自身の好きなこと、長所をより伸ばしていくようにすれば、少しでも仕事が楽しくできるのではないかと私は思っています。

私自身もそして皆さんも特別なオンリーワンになれるように春に向けて元気を出して行きましょう。（伊達信介）

